

久慈地方「木の仕事」協議会主催の林業・木材講座について

1 はじめに

久慈地方「木の仕事」協議会は、林業や木材産業の新規就業者の確保・育成を、地域全体で取り組むことを目的として、平成29年3月に設立された組織です。

協議会は設立以来、さまざまな機会を通じて、業界情報のPRや就労促進に取り組んできたことが評価され、令和2年度いわて農林水産躍進大会において、活力とうるおいにあふれた「むらづくり」賞を受賞したところです。

これら取り組みの中で最も力を入れている、久慈東高等学校の生徒を対象とした現場作業の体験講座を、今年度も開催しましたので、その様子をご紹介します。

2 体験講座の実施

学校のカリキュラムと調整のうえ、6月7日の体験講座に先立ち、林業に対する予備知識の習得と体験講座の注意事項を含めた「前座」となる講義を、林業普及指導員が講師となって6月4日に行いました。

体験講座は、木材産業と林業の体験を会員である事業体の製材工場と伐採現場で行うこととし、クラスの18名を2班に分け、午前と午後で製材工場と伐採現場を入れ替え、生徒全員が全ての体験を行えるようにしました。

製材工場では、製材機、フォークリフト、丸太検知、モルダー、曲げ試験、レーザー加工といった体験を、工場の係員が付き添いながら指導に当たりました。

伐採現場では、ハーベスター、グラップルソー、ロングリーチグラップル、フォワーダ、ドローン、グラップル、樹高測定といった体験を、

14分刻みで次々に生徒全員が体験しました。

当日は好天にめぐまれ汗ばむような陽気でしたが、体を動かすことが大好きな生徒たちは元気いっぱい、怪我も無く、丸1日かけた体験講座を終えることができました。



3 体験後の感想

生徒たちには体験前と後とでアンケートを実施していますが、体験後のアンケートの感想は全て、「たいへん満足した」、もしくは「満足した」という結果で、特に、製材所のフォークリフトや、伐採現場のハーベスターなど、走行車両系の人気が高い結果でした。また、林業や木材産業に対する就業意識も、以前より高くなったことが伺えました。

担任の先生からも、「この体験学習を年間スケジュールのひとつとして期待している」こと、今後の授業を進めるに際しても、「今回の体験を引合いに出して授業を進められるため非常に助かる」といったお話を伺いました。

4 おわりに

協議会が設立して4年目の活動になりますが、今後も継続して活動していくことで、林業・木材産業が久慈地域の重要な産業であることが広く認識され、地域産業として維持・発展していくことが期待されます。